

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること

評価	△
----	---

委員会の総合評価

調査することが目的ではない。個社支援に繋げるためである。2年間行った調査の分析、活用面での職員の支援ノウハウの向上を行ったうえで個社支援につなげる。また、平成30年度の小規模事業者地域経済動向調査について、補助金が無かったから廃止するのはどうか、再検討する。

【評価委員のコメント】

細江氏 △

1. 調査結果が当期の個別の伴走支援につながっていない点、全職員での周知が不十分である点を考慮して評価した。

市原氏 △

1. 2種動向調査を次年度より、2～3ヶ月早めて、個別支援につなげてほしい。
2. LOBO調査は、会議所だよりに掲載されていて、参考になっている。

関口氏 ○

1. 次回は、是非個社支援につなげてもらいたい。

水野氏 ×

1. 数値目標に対し、達成度が低い。
2. 個社支援を行うための調査分析など職員間での情報共有を含め、不十分な状態と感じられる。

鈴木氏 △

1. アンケート調査は、実施し結果を取りまとめたものの、前年同様、その分析、活用が実施できていない。担当者による本事業のPDCA評価では、分析・活用面でのノウハウや能力の欠如が当該不実施の要因としているが、早急の対応が必要。
2. 本調査については、改めてノウハウ等を習得し、30年度における結果の分析・活用に期待したい。また、30年度のアンケート調査実施については、どうするか是非を含めて検討を要する。

2. 経営状況の分析に関すること

評価	△
----	---

委員会の総合評価

巡回窓口指導数、セミナー等の実施状況は概ね良好だが、それがの経営分析・指導診断書の作成に繋がったかといえは不十分である。ただし、経営状況を把握して、指導診断書・経営計画書作成に至らなかった事業所が、その他の金融や経営指導など経営改善普及事業につながった事業所はあるので、この分はカウントすべきである。

【評価委員のコメント】

細江氏 △

指導診断書作成数が目標の36% (18/50) となっている点を考慮して評価した。

市原氏 △

1. 巡回窓口指導、セミナーの参加者数は、ほぼ目標を達成されている。
2. 経営分析及び指導診断書の作成までに至らなかったのが残念です。
3. 補助金関連の事業計画書作成は、やむを得ないと思われます。

関口氏 △

1. 次年度は、指導診断書作成数の増加に向けてもう少し工夫して頂きたい。

水野氏 △

1. 事業者への巡回指導まではできているが、その後の事業者支援につなげるための経営分析、診断等による経営状態の把握が不十分な状態と感じられる。

鈴木氏 △

1. 分析対象については、セミナー受講にこだわる必要はない。
2. ABC分析、SWOT分析等の分析手法や専門化の活用など、分析に係る作業過程において、課題等は露呈しなかったか。

3. 事業計画の策定支援に関すること

評価	△
----	---

委員会の総合評価

創業受講者のうち3名が開業したことは高く評価。開業場所の問題があるが、広域に募集し、出席者数を増やす努力を行う。昨今は城下町への出店も多いので、城下町での開業を前提としたセミナーもよい。事業承継及び経営革新計画セミナーも同じく出席者数増をはかる。

【評価委員のコメント】

細江氏 △

1. 3名の創業者を輩出された点は高く評価されるが、各項目共に数値目標を下回っている点を考慮して評価した。

市原氏 △

1. 事業計画、事業承継セミナーの実施については、目標達成している。
2. 事業計画作成も、26件と目標は達成していないが、一般事業者の掘り起こしが必要となる。
3. 創業塾の参加者がちょっと少なく、せっかくの良い企画のため、今後募集方法に工夫すること

関口氏 ○

1. 概ね計画通りの成果あり。

水野氏 △

1. 事業計画作成セミナーの受講が、計画作成に至っていないこと、起業、創業者による計画書作成件数が増えていくと良いと感じた。

鈴木氏 △

1. 「事業計画の策定支援面」での傾向は、前年度のそれから脱却できていないが、計画策定動機の是非について余りこだわる必要はないと考える。
2. 計画策定目標件数達成のためには、今後どう取り組むかの精査が必要。
3. 事業承継問題を抱える事業者の個別具体的把握が課題。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

評価	○
----	---

委員会の総合評価

フォローアップの実績数が目標値を大幅に上回り成果あり。しかし、支援の中身をどうやって充実させていくか。資金確保のみが目的でない。経営計画書きに記載された経営計画が着実に実行できるよう必要な知識の習得、支援ノウハウ等資質向上、情報共有などに努め、個社支援に繋げていくことが必要。

【評価委員のコメント】

細江氏 ○

1. 当初の計画の通り、日々の着実な伴走型支援が提供されており、活動の積み重ねで目標件数を大きく上回った。

市原氏 ○

1. 実績件数も、108件と大きく目標を上回っている。
2. 事業所の問題点について、指導したことは良かった。

関口氏 ○

1. 実績が計画を大幅に上回り成果あり。

水野氏 ○

1. 伴走型の支援ができているものと感じられた。

鈴木氏 △

1. 「事業計画実施支援」としては、資金確保面での支援に加え、ソフト面での支援を充実させることが必要。このためのノウハウ等の入手を図るべき。

5. 需要動向調査に関すること

評価	×
----	---

委員会の総合評価

市場・消費・動向調査については、内容・回数とも不十分。情報の収集、分析、提供方法等再検討する。

【評価委員のコメント】

細江氏 ×

1. 前年度の振り返りで修正を図ったが、更に立て直しを図る必要がある。当年度については、実施内容に乏しい点を考慮して上記の評価とした。

市原氏 ×

1. 市場、消費、需要動向調査は、現状の方法を活用することで良い。
2. 犬山産業振興祭への出展社4社を、次年度は増やすことを考えて欲しい。
3. 消費者リサーチの事業者からの要望は、日常において、支援担当者がコツコツと情報を集めることに努力する。

関口氏 ×

1. 実績を増やすように努力が必要。犬山特産品館等もっと地元の商品をPRした方がいい。

水野氏 ×

1. 数値目標に対し、達成度が低い。
2. 調査結果が、事業者の製品開発、販売戦略にどう活かされたのかという記載があると評価につながると感じられた。

鈴木氏 △

1. 「市場・消費・需要動向調査」については、内容、回数とも不十分。データの選別、分析・提供方法について見直しが必要。
2. 「消費者リサーチ」については、実施の場及び対象事業者が極めて少なく、効果が見えない。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

評価	○
----	---

委員会の総合評価

需要開拓に関する活動は十分な実績内容であるが、技術シーズ案内書事業、グルメナイトマップ事業については、事後の追跡調査、またホームページ作成についても事後開設事業者の把握等を必要とする。あまり手間がかからない方法を検討して、次年度はこの点に注視し引き続きの事業展開を望む。

【評価委員のコメント】

細江氏 ○

1. 数値目標を概ね達成された点を評価した。次年度に向けた改善方法について、具体的な解決策を持って取り組んでいただきたい。

市原氏 ○

1. 目標数値は、ほぼ達成されている。
2. 地域商談会は、地元のこともあり、もう少し参加企業の増加が望まれる。
3. 技術シーズ案内書を継続して、実施願いたい。

関口氏 ○

1. 概ね計画通りの成果あり。

水野氏 △

1. 需要開拓の施策の実施については、概ね達成されているが、その後の追跡による確認が必必要ではないかと感じられる。

鈴木氏 △

1. 有効性が認められる事業については、参加事業者の拡大等を図り、支援ツールとして認知、定着させること。

Ⅱ. 地域経済の活性化に資する取り組み

評価	△
----	---

委員会の総合評価

各地域の取組内容、事業によっては商工会議所の立ち位置も異なり役割もある。成果がどの程度あるかわからない。各事業を実施することにより周辺の事業所への来店客数増となるような働きかけを求める。

【評価委員のコメント】

細江氏 △

1. 評価書の通り、実績（取り組み）にバラツキが生じたため、上記の評価とした。活動のアクションプランへの落とし込みが不十分であった可能性がある。

市原氏 △

1. 犬山祭は、地元の努力、名鉄との連携もあり、ここ数年人出も多くなっている。
2. 犬山ドッグも知名度が向上している。
3. 外国語看板対策事業は、今後必要となることは必至です。

関口氏 ○

1. 産業振興祭事業等による近隣商工業者への寄与度（売上等）の検証が必要

水野氏 △

1. 各地域で様々な取り組みが実施されており、概ね目的が達成されていると感じられる。

鈴木氏 △

1. 発達支援計画に掲げられた現行の地域経済活性化事業については、取り組み内容、効果の面から精査した上で、整理が必要。

Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

評価	△
----	---

委員会の総合評価

概ね達成されてはいるが、個社支援力向上に向けての研修会や、担当以外の分野についても職員間の情報共有等を図ったうえ、さらなる資質向上に努める。

【評価委員のコメント】

細江氏 △

1. 数値目標の達成状況から「概ね達成」ということで上記評価とした。

市原氏 ○

1. 研修会、勉強会等に積極的に参加されている。
2. 各職員が、満遍なく参加できるように努力すること。

関口氏 ○

1. 概ね計画通りの成果あり。

水野氏 △

1. 概ね経営指導員の資質向上の取組はできているようである。また、情報収集作業もできているので、今後、この情報を分析し、活用までにつなげていけると良いなと感じられた。

鈴木氏 △

1. 「他の支援機関等との連携」については、個社具体的な個社支援に必要とされる支援ノウハウ等の共有を念頭においた情報交換を行うため、連絡会をどのように運営するかについて検討すること。
2. 「経営指導員等の資質の向上」については、各員は、引き続き各種研修等の機会を活用して当該資質の向上に努めるとともに、担当する事業のみを実施すればよしとするのではなく、常に本発達支援計画に係る全事業を頭に置き、その間の関連性を活かした支援活動を実施すべき。このため、連携的実施のコーディネーター役を設けること。
3. 「PDCA」については、個社支援に係るPDCAの実施時期を早めるとともに頻度を増やし、事業の実効性向上に役立たせること。